みんなのベンチ部

～ 屋上庭園編 ～

屋上庭園ボランティア　御手洗和代

みなさんの好きな場所はどこですか？

爽やかな風が吹き、いろいろな花が咲く本当に気持ちのいい病院6階の屋上庭園。日々、ボランティアが手間ひまかけているだけでなく、患者さんまでが水やりや野菜の収穫などを楽しむ奇跡のようなステキな場所です。

そこにあるベンチがアチコチ板が朽ちて困っている、と声をかけてくださったのは去年の春のことでした。

ステキな場所をもっとステキに！

以前から地域で活動しているボランティアグループ「みんなのベンチ部」にとって、とても嬉しいお話です。

みんなが使うベンチをキレイにする「みんなのベンチ部」。職業も年齢も趣味も全く関係なく、ただただベンチをキレイにしたい人が集まって、ワイワイガヤガヤ、押し売りならぬ「押しキレイ」に汗を流します。作業の終わりはいつも決まって「今日も楽しかった！」と笑顔になれる部活です。

今回集まった部員は、私を含め総勢３名！(笑) 庭園のお世話をしている初参加の山口さん。庭園の管理運営の実力は折り紙つき！加えて、細かいことが大好きな即戦力！ もう1人は、いつもニコニコ笑顔がステキなベンチ部技術部長、カガラカン木工担当の山本さん。冷静な判断力と確かなプロのお仕事で、ベンチ部を支えてくれる頼もしい人。

当初は、腐食した板だけを修繕しザッと塗装し直すという単純な予定でしたが、細かく状態を見てみると、隠れ腐食がアチコチにあったり、塗料がなかなか剥がれないなど…前途多難。

安全性や今後のメンテナンスを考え、結局、40枚以上の座面板を全て外し、1枚ずつリペアすることに決定！

そのため思った以上に時間がかかり (笑)、利用されるみなさんにはご不便をおかけしましたが、病院のご理解やアドバイスをくださる方に恵まれ、師走のある日、なんとか無事に修理を終えました。

季節が変わる長丁場、ホッとしたと同時に、たくさんの心強い伴走者のことを次々に思い出しました。

遠巻きに見ながら、ニッコリ笑ってくださる方。暑い中、日々塗料を手作業でペリペリ剥がしているのを見ていて熱中症を心配してくださる方。本職が大工さんで、寒空の下、作業を見にきては「よ～できてますよ」と褒めてくださる方など…

患者さんをはじめ、庭園に来られた方が、私たちの強力なサポーター。今回の「楽しかった」はみなさんのおかげで格別なものになりました。本当にありがとうございます。

これから暑くなりますが、風を感じに、庭園をちょっと覗きに来てください。

自然の中で時間を過ごす小さな小さな居場所、ベンチもお待ちしています。

みなさんの好きな場所はどこですか？

皆さんの周りに、そんなホッとできる場所が増えていきますように…

独立行政法人 国立病院機構
四国こどもとおとなの医療センター
〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1　TEL　0877-62-1000　https://shikoku-mc.hosp.go.jp
交通機関　▼善通寺 I.C より車で５分　▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分

発 行 日 / 令和６年 ７ 月 １ 日
発 行 者 / 前田　和寿
編集委員 / 広報委員会

2024.07
vol.42
四国こどもとおとな
https://shikoku-mc.hosp.go.jp

独立行政法人 国立病院機構
四国こどもとおとなの医療センター

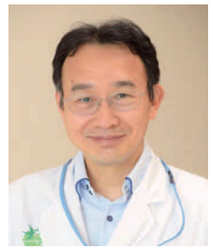
こもれび通信

Shikoku Medical Center for Children and Adults®

光と影、人物と植物、バランスを保ちながら循環する命の恵が、全ての人をこもれびのようにやさしく包み込みますように…

「ゲイシャ」とは？

四国こどもとおとなの医療センター　栄養管理室長　橋　本　龍　幸



ゲイシャと聞くと、「芸者」をイメージする方が多いでしょうか？コーヒーが好きな人であれば、「ゲイシャ」というコーヒー豆の名前を耳にしたことがあるかもしれませんね。コーヒー豆はアカネ科コフィア属の熱帯植物。飲用目的で栽培され流通しているのは大きく分けてアラビカ種、カネフォラ種の2種類です。アラビカ種はさらに細かな品種に分類されており、ゲイシャ種はその一種。ゲイシャ種は、1931年エチオピアのゲシャという地域に自生していたものが発見されました。この地名からゲシャ種と呼ばれていましたが、やがてゲイシャ種として知られるようになりました。1960年代には、南米・中米にも伝わっていきました。

ゲイシャ種の栽培を続ける数少ないコーヒー農園の一つが、パナマにあります。この農園は標高1,600mほどに位置する世界有数のコーヒー農園で、豊かな自然と降雨量に恵まれる上、無農薬や手摘み収穫など、こだわりある生産姿勢に定評があります。ゲイシャ種が脚光を浴びるキッカケとなったのが、2004年に開催されたコーヒーの COE (カップオブエクセレンス)※3 国際品評会です。このパナマの農園がゲイシャ種を出品したところ、これまでにない高値で落札されて優勝。ゲイシャショックと呼ばれるこの出来事から、ゲイシャ種は1日にして世界一有名なコーヒー豆となったのです。この農園のゲイシャ種はその後も毎年優勝を重ね、2008年には品評会にゲイシャ部門が設けられることになりました。

スペシャルティコーヒー

このゲイシャ種のようなコーヒー豆は、スペシャルティコーヒーとして評価されています。日本スペシャルティコーヒー協会によると、スペシャルティコーヒーとは、「消費者(コーヒーを飲む人) の手に持つカップの中のコーヒーの液体の風味が素晴らしい美味しさであり、消費者が美味しいと評価して満足するコーヒーであること」そして、スペシャルティコーヒーの要件として、サスティナビリティ※1とトレイサビリティ※2の観念は重要なものと考えています。

1970年代、コーヒーは、アメリカをはじめとする多くの国で大量消費される時代が続いていました。消費者にリーズナブルなコーヒーを提供することが最優先とされ、コーヒーの低価格化が加速。その結果、生産者に渡る賃金が低下して担い手が減り、人手をかけられないことから品質が悪化する事態になったのです。

この悪循環が消費者のコーヒー離れを引き起こしました。このことから、コーヒー農園を守り高品質なコーヒー豆の生産環境を整えることが、コーヒーを楽しむ消費者のメリットになるとして、スペシャルティコーヒーという概念が生まれたのです。

一般に流通してるコーヒー豆という

のは「ブラジル」とか「コロンビア」など、国の名前で表示してあるものがほとんどでした。これは、コモディティコーヒーという最も流通量の多い標準品を使用しているためです。（図1）従来のコモディティコーヒーの場合、品質チェックというのは、国によっても様々なのですが、豆の外見や欠点の少なさだけをみて評価するものでした。つまり、一番重要なコーヒーの「おいしさ」は、評価の対象になっていませんでした。お米で言えば、“コシヒカリ”なのか、“ヒノヒカリ”なのかによって味が変わってしまうのに、すべての県のお米をブレンドして「日本米」として輸出しているようなものといえるでしょう。

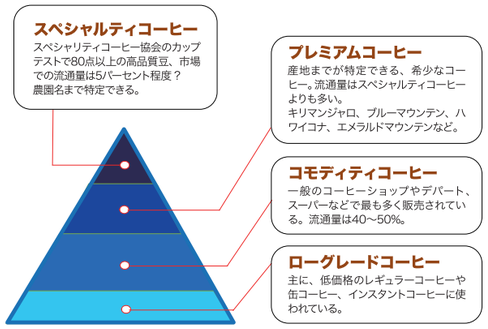
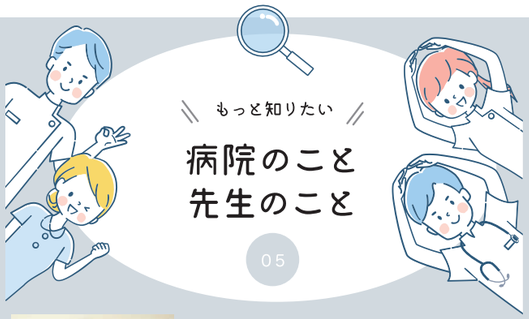


図１　コーヒー豆の品質と流通量

コーヒー豆の保存方法

コーヒーは空気に触れることによって、酸化が進んでいきます。正しい保存方法をすれば、品質劣化のスピードをゆるやかにして長持ちさせることができます。豆の状態で購入して、冷凍保存するのがおすすめですが、冷凍庫に空きがなければ常温保存となります。常温保存の場合は、１ヶ月以内に使い切る量の豆にします。粉の状態でお買い求めの場合は、酸化が早いので冷凍保存がいいようです。保存時は、できるだけ空気を抜いて、しっかりと密閉または、密閉容器に入れます。使用時は使う分だけ取り出したらすぐに冷凍庫に戻すのがいいでしょう。

※1 サスティナビリティ（持続可能性）とは、現在だけでなく未来のことも考えたうえで、自然環境や人々の生活をよい状態にたもつことを目指して生産・流通されること。生産地における経済活動や環境問題、社会問題などに配慮されていること。
※2 トレイサビリティ（追跡可能性）とは、生産者、生産地、輸出規格、品種などが明確で、生産から消費までの過程を追跡することが可能であること。おいしくて高品質なだけではなく、安全であるということも重要視されている。
※3 COE（カップオブエクセレンス）は、その年に収穫されたコーヒー豆の中から高品質なものを決める国際品評会で「コーヒー界のアカデミー賞」と言われています。COEに集まるコーヒー豆は、品質の高いスペシャルティコーヒーだけです。入賞したコーヒー豆はインターネットオークションにかけられ、世界中のコーヒー業者が入札。オークションで決まった落札金額はすべて生産者に還元される仕組みになっています。



山戸聡史 先生
小児科医師

1 病院のココが自慢
総合周産期母子医療センターとして、香川だけでなく四国の赤ちゃんの強い味方！

2 患者さんと接する時に大切にしていること
あいさつ

3 医師になろうと思ったきっかけは？
たまたま

4 もし、医師になっていなかったら？
獣医

5 先生が実施している健康法は？
ソフトテニス

6 当院に期待すること
あいさつしましょう

7 どっち？

	犬派	猫派
朝食は	和食	洋食
休日は	インドア派	アウトドア派

8 好きなもの（こと）Best３！
1 ふね　2 ねこ　3 しま

9 フリースペース
縁があって声をかけてくれる子、そのお母さん、お父さん。こんなに嬉しいことはありません、ありがとうございます。

おひさま壁画アート

～ 癒しの空間　温かァート～

重心在宅支援通園センターおひさま 看護師長　西野卯月

令和5年10月27日に、おひさまの壁画アートが無事に終了しました。

重心在宅支援通園センターおひさまの室内は、保育士さんが折り紙などで装飾していましたが、白い壁が多く、殺風景で少し寂しい印象でした。当院には、病院のサービス向上を目指すサービスリーダー会があります。その活動の1つに「病院を変えよう！」という取り組みがあり、そこにおひさまの壁に絵を描きたいと希望したことで、今回の壁画アートの開催に至りました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の流行により、以前のように家族がおひさまのフロアーに入ることは難しく、利用者さんと一緒に何かを行うということが出来ていませんでした。この壁画アートは久しぶりの大きな活動になりました。

開催日の数日前からは、作家さんにより太陽と月の絵が描かれました。太陽と月の絵には光の矢が放たれています。その周りには、利用者さんが1か月前から描いた数々の星が輝いています。

当日は、来園した利用者さんとご家族に、好きな色を選んでもらい、家族に手を添えてもらいながら、1つずつヒマワリを描いていきました。大きく鮮やかなヒマワリや小さく可愛らしいヒマワリなど、様々なサイズと色のヒマワリが少しずつおひさまの壁に咲いていきました。おひさまのスタッフも日常生活支援の合間を見て、利用者さんと共に沢山のヒマワリを描きました。また、当日利用予定ではなかった利用者さんも、壁画アートに参加するために来園してくださいました。

また外壁は、善通寺支援学校の生徒さん方が、大きな蝶々とその周りに沢山のヒマワリを描いてくれました。決められた色の中から好きな色を選んで描いたヒマワリは1つとして同じヒマワリはありません。参加してくださった全ての方々の個性が出ており、おひさまスタッフ、利用者さんとその家族、そして病院職員にとって、とても記念に残る活動になりました。今回の壁画アートには横田院長をはじめ、多田看護部長、様々な部署から多くの職員、善通寺支援学校や善通寺看護学校の生徒さんなどを含め、約250名が参加して下さいました。多くの方々におひさまや壁画アートに関心を持ってもらえたことは非常に嬉しく、看護師長としても感無量です。後日、ご家族からは「明るくなった」「参加して良かった」「記念になった」「元気がもらえます」「子供と一緒に書いた絵が、ずっと残るなんて嬉しいです」など本当に多くの嬉しいお言葉をいただきました。職員も壁に咲いたヒマワリによって、白く寂しかった壁が明るくなり、利用者さんも書いた星が素敵だと喜んでいます。利用者さんと一緒になって仕上げた壁画には、愛着が生まれ共同で作り上げる過程は、大切な思い出となりました。

最後になりましたが、今回このような壁画アートを実現するにあたり、ご尽力いただいたすべての方々に心より感謝いたします。